

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

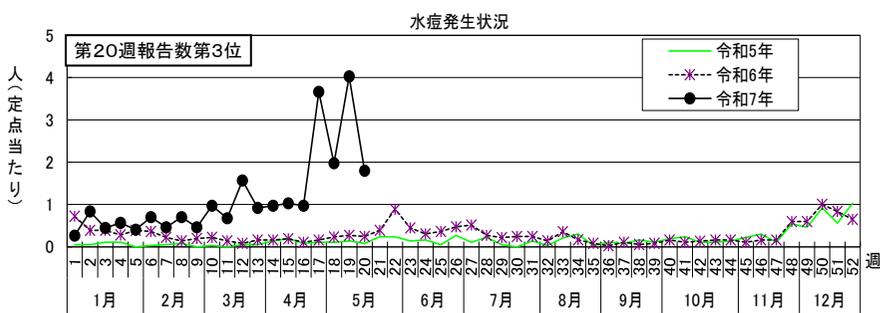
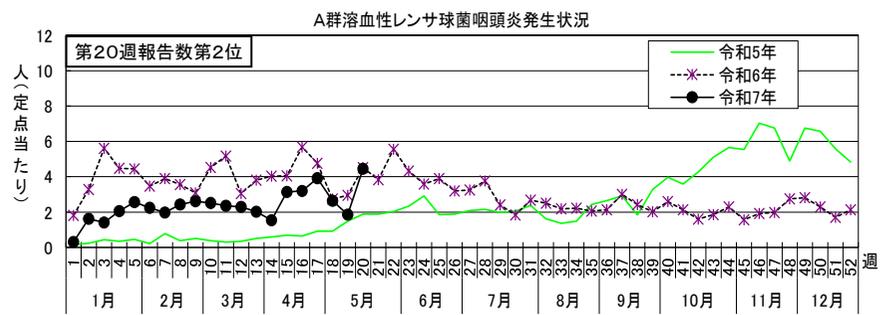
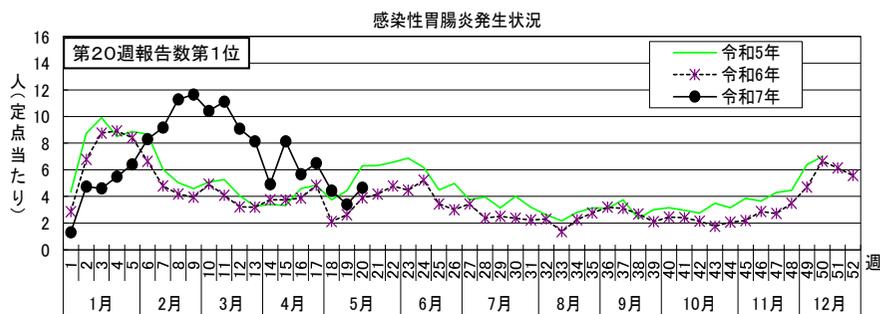
令和7年5月12日（月）～令和7年5月18日（日）〔令和7年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.66人と前週（3.40人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.46人と前週（1.86人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

水痘の定点当たり患者報告数は1.80人と前週（4.03人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



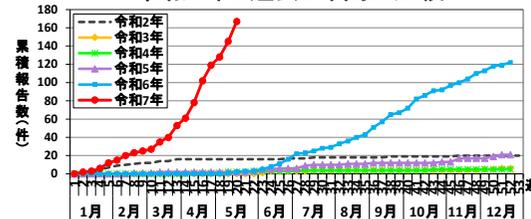
## 大人の感染が増えています！～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等がみられる細菌感染症です。川崎市では昨年の夏以降報告数の増加がみられていましたが、今年は4月から急増し、第20週（5月12日～18日）までに計167件となりました。

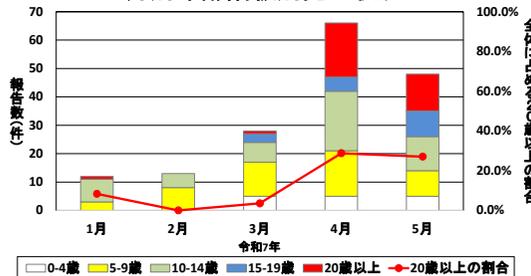
百日咳の報告は小児が中心ですが、4月以降全国的に20歳以上の患者の報告割合が増加しています。川崎市においても4月は20歳以上が28.8%、5月は現時点で27.1%を占めました。

大人が感染源となり、乳児がり患すると重症化する場合があります。お子さんを守るためにも、咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における百日咳の累積報告数の推移  
—令和7年と過去5年間の比較—



川崎市における百日咳の  
月別年齢階級別発生状況



### 百日咳とは？

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

通常5～10日間（最大3週間程度）

【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
- ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が続く。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）

